

地域の新たな「力」となる

地域おこし協力隊・実践隊



今、都市部に住む人たちが、さまざまな理由で豊かな自然環境や歴史、文化などに恵まれた「地方」に注目しています。「地域おこし協力隊」とは、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方で、首都圏など都市部の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらう取り組みです。意欲ある都市住民のニーズに応えながら、定住・定着を図り、地域力の維持・強化につなげることを目的としています。明宝・和良地域では「地域おこし実践隊」として同様の事業を行っています。

協力隊・実践隊による 地域課題解決と定住

郡上市では、地域おこし協力隊・実践隊制度を平成23年度から導入し、これまでに33人の「隊員」を受け入れてきました。

協力隊・実践隊の主な活動は、地域行事の応援、地域ブランドや地場産品の開発・販売・プロモーション、空き家活用、観光資源の情報発信、農作業支援など、受け入れ地域によってさまざまです。隊員としての任期は3年間で、地域づくり団体等とともにその地域の課題解決に取り組みます。

これまでに隊員を「卒業」した27人のうち21人が市内に定住（78%）し、全国水準（62%）と比べ、高い定住率となっています。市では、地域団体等へ隊員の活動支援を委託しています。地域と隊員が協働して、地域課題に対して効果的に活動できる体制が作られていること、また地域に溶け込みやすい環境が整えられていることが高い定住率の要因と考えられます。

今年度は、新隊員3人が加わり、計9人の協力隊が市内で活動しています。また11月にはさらに1名が着任予定です。

今月号では、地域づくりの新たな力となる隊員のみなさんを紹介します。

平成30年度着任（3年目）

『都会が憧れる』場所を目指して



西和良地域おこし協力隊

おかざき しゅういち
岡崎 修一 隊員

福井県出身、田舎から田舎へやってきました。

堀越峠を抜けた山の上。西和良でお世話になっています。

『都会が憧れる』だけでなく、田舎生まれ田舎育ちの自分すらも憧れる日本の原風景の姿がそこにありました。

現在は、地域特産物（ジビエ狩猟肉）の商品開発や販路拡大、地域資源を活用したキャンプイベント開催などの活動をしています。

関係人口や地域格差が話題になっている今ですが、西和良の人たちが誇れる文化や生活を都会の人たちに届けていきたいと思っています。

平成30年度着任（3年目）

地域のみなさんと花畑づくり



川合東部地域おこし協力隊

すぎやま けんたろう
杉山 健太郎 隊員

学生時代に水環境の研究をし、その後、機械メーカーの技術職として5年間、水質浄化等に関わりました。より自然に近い職と生活の場を目指して水と調和したまち・郡上に惹かれて移住しました。

現在は川合東部（小駄良）地域の休耕地でカモミールの花畑づくりやドローンの活用研究をしています。カモミール畑は農地のある河鹿地区をはじめとした川合東部のみなさんに栽培・収穫を協力いただき、商品開発を進めています。

今後は農地活用の継続と、ドローンによる農業や防災への活用に取り組んでいきたいと考えています。

平成30年度着任（3年目）

石徹白らしさ（地域資源も課題も）を生かして自然学校を創ります！

家族4人で移住した石徹白地区で、2018年から「石徹白らしさを大切にしたエコツアーの確立」と、これらを引きつらした「関係人口の増加」を目指し、集落案内や古道再生・維持などを行っています。

今後は先人たちの想いや伝統を継承しつつ、最先端の「暮らし」と「学び」を研究、実践する「自然学校」を地域内外の人と育みます。石徹白の今を伝える情報発信や執筆活動も行っています！



石徹白地域おこし協力隊

おおにし たくや
大西 琢也 隊員

神奈川県出身の45歳です。これまで20年間、子どもたちの自然体験活動や人財育成研修、危機管理講座など人と組織の「根っこ」を育む場づくりをしてきました。

2011年、東日本大震災による原発事故を南会津町で経験し絶望を感じましたが、6年半の保養支援活動で多くの出逢いや希望を見出すことができました。

平成30年度着任（3年目）

文化は生活とともに



白鳥地域おこし協力隊

やぎ ようこ
八木 洋子 隊員

4年前の7月9日、長滝白山神社の拝殿踊り発祥祭で感じた包まれるような不思議な一体感と幸福感はどこか懐かしさがありました。それから拝殿踊りを追いかけて、白鳥町の見付義勝先生の唄を習う会に参加するうちに、白鳥町に住みたいと思うようになり、協力隊に応募しました。

協力隊の仕事では、現在、多くの人と協力し白鳥町北部や白山文化を紹介するパンフレットを作成しています。私は文章作成を担当しており、図書館で調べたり取材をしたりして短歌を織りませた内容となっています。まもなく発行予定です。

本当に素晴らしい文化が生活とともにある郡上。みなさんこれからもどうぞよろしくよろしくお願いいたします。

平成30年度着任（3年目）

特色ある地域づくり活動を受け継ぎつつ新しい風を取り込む

小川は今後、少子高齢化が更に進行する一方で、間もなくトンネルが開通するなど大きな転換期を迎えようとしています。できる事は何でもする、やりたい事は全部やるというつもりで、ここでの山や川の恵みを生かした暮らしを楽しんでいきたいと思っています。

小川地域内に2000本以上植栽されていると言われる花桃の剪定や下草刈りなどを中心に、冬のスケートリンク作りや、地域の特産米「日出雲ひでぐものめぐみ」の生産支援などを行っています。また花桃の苗木の地域内での自給や新たな特産品の開発にも取り組んでいます。



小川地域おこし実践隊

うのき のりゆき
鵜木 憲之 隊員

令和元年度着任（2年目）

地域を紡ぐ農家創出への挑戦



石徹白地域おこし協力隊

たなか ひろたか
田中 宏尚 隊員

みなさん初めまして。岐阜市に住んでいた私が郡上に移住するきっかけとなったのは、石徹白に住む方との結婚です。石徹白か岐阜か？もともと岐阜市内で個人農家をしており、場所が移れどやる事は変わらないうと、人生の転機ととらえ、地域おこし協力隊に飛び込みました。

そんな中、集落の営農振興という仕事がある事を知り、応募させていただきました。担い手不足や高齢化、耕作放棄地など、今やどの地方でも抱える課題が頭をもたげますが、郡上の新たな一員として、また農家として、活動を通してここで農業を始めたいとする同志が現れる一助となるよう努めています。

令和2年度着任（1年目）

山での暮らしを求めて

卒業後は、この「場」を継続維持できるよう地域のみなさんとのつながりを大切に、学びながら、持続可能な環境を作っていければと思っています。

協力隊になる前は、名古屋でグラフィックデザインの仕事と解体業という、相反する仕事をしていました。仕事場や休日には自然の中で過ごすことが多く、いつか家族と山で暮らそうと調べる中で、母袋での協力隊募集に出会いました。ここでは地域の資源を使ったアースバック（土嚢に混合土を入れて積み上げる）や小屋などをつくり「ほったて小屋プロジェクト」として地域の人と外の人が交流できる「場」を構築中です。



母袋地域おこし協力隊

くめ ようへい
久米 庸平 隊員

令和2年度着任（1年目）

自然と働き、自然と生きる



高鷲地域おこし協力隊

のぐち よう
野口 洋 隊員

協力隊になる前は、名古屋で土木設計の仕事をしていましたが、環境教育を学ぶために郡上へ来ました。協力隊に応募したのは、自らが自然豊かな場所で生活することで人と自然との繋がりをつくりたいからです。協力隊の任務は農業振興です。主に農産物のPRや人手不足の解消に取り組んでいきます。

現在は、農業の現場を知るために農家さんの下で農業体験をしたりSNSで情報発信をしています。

今後は、高鷲地域の園芸農産物の知名度アップのための農業体験や人材の受け入れ体制づくりをしていきたいと思っています。

令和2年度着任（1年目）

郡上で地域に根ざした生き方をつくる



和良地域おこし実践隊

なかじま ゆきお
中島 幸夫 隊員

郡上に来る前は東京でIT系の仕事をしていました。

地域のことを学びながら、共に地域を盛り上げていく仕事をしたいと思ひ、実践隊に応募しました。

今は和良町で地域資源活用による体験型ツアーリズム（鮎釣り教室、はごご探検隊、ろうけつ染め体験教室など）の企画・運営、農家民泊推進等による交流促進、地域ブランド「和良鮎」のPR、集落活動支援、ゲストハウス検討などの活動をしています。

これからも地域内外に和良のファンを増やすべく、日々地道に汗を流していきたいと思っています。

令和2年11月から新規着任

郡上への移住を決めました！



高鷲地域おこし協力隊

わたなべ しん
渡邊 慎 隊員

コロナウイルスの影響により大変なご時世ですが、今秋より高鷲地域での活動開始を予定しています。

協力隊に応募したきっかけは、かねてより訪れていたなじみの土地であるということと、訪れるたびに郡上の観光資源に魅力を感じ、いつか仕事として郡上の観光産業に携わりたいと考えるようになりました。そんな中、観光を含めた地域振興分野での協力隊の募集は私にとっては願ったり叶ったりでした。

また、私の地元である栃木には郡上藩の凌霜隊に纏わる史跡も多く、郡上には強い縁を感じています。